


## ■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。  
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

**\*** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

**CC** : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

 : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Today OCW 学術俯瞰講義  
Copyright 2013, 石原孝二

The University of Tokyo / Today OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series  
Copyright 2013, Kohji Ishihara

# 精神障害とは何か —当事者研究の可能性—(2)

石原孝二

教養学部・学際科学科・科学技術論コース／

科学史科学哲学研究室

# 前回の授業のまとめと補足(1)

- 精神障害者は長い間「語り」を奪われ、公の場に姿を現すことを抑圧されてきた。
- 1984年に「設立」された「浦河べてるの家」は、「商売」を通じた社会進出や「幻覚・妄想大会」などのユニークな活動を通じて、精神障害者の「語り」を取り戻そうとしてきた。
- 2001年に始まった「当事者研究」は、べてるの活動の中から生まれてきたものであり、障害当事者自身による研究実践である。キャッチフレーズは「自分自身で、共に」であり、当事者が仲間とともに、自身が抱える苦悩に向き合うというところにその特徴がある。
- 「当事者研究」は、精神障害のバリアフリー化を進める機能がある。

# 前回の授業のまとめと補足(2)

- しかし「当事者」とは精神障害者に限られるものではなく、「苦悩」を抱え、自らの苦悩に向き合う者は誰もが「当事者」となる。
- 「当事者研究」は、現在では関東や関西などにも広まり、韓国でも関心を持たれている。また、精神障害に限らず、発達障害や依存症などの当事者の間にも広がっている。
- 2013年5月には浦河で第8回日本統合失調症学会(べてるの家の共催)が開催されるなど、専門家からもべてるの家の実践は大きな注目を集めている。当事者研究の実践は「専門知」と当事者の知がどのような関係にあるのか、どのような関係にあるべきなのか、「研究」とは一体何なのかを問いかけている。

# 自己病名

- 統合失調症暗殺集団に殺される妄想タイプ
- 統合失調症自他の苦勞のちゃんぽん圧力鍋ひきこもりタイプ
- 自分不在やましいと具合が悪くなるタイプ
- 統合失調症全力疾走依存あわてるタイプ
- 統合失調症嫌われモード型声ヘリウムみんなのしゃべっていることが頭に入らないタイプ

# 前回の授業へのコメント・質問(1)

\* 授業の内容に肯定的な意見も多くありましたが、ここでは、(なかなか鋭い)否定的な意見や質問のみ取り上げます。

## <弱さをさらけ出すことの問題点>

- 当事者研究の確固たる目的が解らない。精神障害の人々を擁護するだけのことにしか思えない。
- 「妄想大会」といった取り組みは痛々しい気がする。自身の症状を前向きに受け止められていない人にとっては見ていてつらいだろう。
- 自分の弱さを吐き出すという事例があったが、人によっては必ずしもそれが良い方へ向かうとは限らないだろうと思った。
- 「障害」を持つ人も様々であり、自分の弱さをさらけ出すことに違和感を持つ人もいるはずなので、そのような人々にとっても有益となるような当事者研究になってほしい。

# 前回の授業へのコメント・質問(2)

## <当事者研究は何をするのか？>

- 当事者研究＝自己分析？
- べてるの家では精神医学的治療は並行して行わないのだろうか。もし行わないのであれば、当事者研究のみで障害を軽減できるのだろうか。そもそも障害の軽減が目的ではないのだろうか。
- 「べてる」の目的は、当事者の人たちが比較的困難なく生活できる独立的空間の創出なのだろうか。
- 「べてる」は自己病名等の当事者研究によって社会による障害者の無力化としてのdisabilityを解消しようとしているということだろうか。impairmentも解消できるのだろうか。
- 当事者研究の研究方法自体が一般の研究方法と比べて客観性に欠け、応用利用可能範囲が狭い気がした。

# 前回の授業へのコメント・質問(3)

＜当事者研究で気をつけるべき点は何か＞

- [当事者研究では] 自分の症状だけに目が向きやすく、他者の症状をつかみづらいという問題もあるのかなと思った。
- 問題と人を切り離して考えるという方法は、受け取る側にも訓練が必要になると感じた。
- 当事者研究を行う場合、研究内容の分析や論文執筆中に幻覚・妄想が出てきてしまったらどうするのだろうか。
- 当事者の中には研究が精神的理由などで困難な方もいらっしゃると思うが、そのような方へのサポートはどのようにするのか。
- 先生は精神障害を持つ人に接する機会が多いと思うが、その際、何に注意しているのか。